

公益社団法人 日本青年会議所 九州地区 佐賀ブロック協議会

佐賀ブロック会長 金子 晴雄

現状分析	佐賀県は畜産、農業、窯業など魅力的な資源を多く持つ県です。人口は現在83万人となっていますが、減少トレンドで進んでおり、2020年には80万人、2035年には71万人にまで減少する見込みです。特殊出生率は全国平均より高いものの、若年層の就職による転出が多く、生産年齢人口の減少が大きな懸念材料となっております。
活動概要	<p>■地域社会でSDGsを達成していくための事業の企画・実施</p> <p>SDGsの認知度の低さや、取り組みの少なさを踏まえ、企業や自治体へのSDGsの啓蒙活動に努めます。そのために、企業や自治体を訪問しての対話や、官民入り混じってディスカッションする場を提供し、SDGsに対する周知に努めてまいります。</p>
	<p>■ブロックと連携した会員拡大支援の企画・実施</p> <p>県内各地青年会議所から拡大に関するニーズを吸い上げるため、理事長や拡大担当者を交えた拡大会議を定期的に行います。また、会員数10名以下の存続が危ぶまれるLOMIに対しては拡大の現場に直接赴き、直接的な支援を行うことでLOMの活性化に繋げてまいります。</p>
S D G s	【1、4、17】
K P I	(SDGs) 県内企業へSDGsの周知活動を行い、運動の実施を推進します。1年間の推進で県内企業のSDGs運動実施企業30社(県内企業の1%)を目指します。
	(会員拡大) 会員数の安定しているLOMIに関しては定期的な拡大会議を行い情報の共有、成功事例の展開を行い、存続危機にあるLOMIに関しては直接的な拡大支援、OB、各地域への訪問支援を行い、2018年10月現在の会員数300名から34%増の会員数402名を目指します。
IMPACT (影 響 力)	(SDGs) 県内の企業、自治体、LOMIに対しSDGsの必要性、重要性を伝える啓蒙活動を行うことで、各団体の取り組みを推進し、SDGsの達成に繋がります。
	(会員拡大) 会員数を拡大することで、LOMとしての活動・運動を展開しやすい環境を構築し、持続可能な政策を発信できる基盤を整えます。
MOTIVATE (意 欲)	(SDGs) 官民の垣根を超え、同じ目的に向けて取り組むことで、県内一体となったパートナーシップの醸成を目指します。また、LOMIにおいてはSDGsを意識した事業を行っていただきます。
	(会員拡大) 人々の意識変革を促す最も良い機会である会員拡大を支援していくことで、青年の発展・成長の機会を各方面に広げてまいります。
INVEST (投 資)	(SDGs) 県内の企業、自治体とのディスカッションを経過を市民に広く広報することで、市民の意識醸成へ繋がります。
	(会員拡大) 各地青年会議所のニーズを吸い上げるための、定期的な拡大会議を開催します。また、拡大の現場にブロックから人材を派遣することで効率的な拡大を推進します。
COLLABORATE (協 力)	(SDGs) 有識者への協力を仰ぐことと、各地青年会議所への周知を行うことで、当事者意識の醸成を目指します。
	(会員拡大) OBから協力を頂きます。また、各地域の企業の代表者との対話を行い、青年会議所への理解を深めます。
CONNECT (つ な が り)	(SDGs) 自治体や企業とディスカッションを行うことで、SDGsだけではなく、JC自体への理解と協力体制を構築し、より強い協働へと繋げてまいります。
	(会員拡大) 各地青年会議所の理事長、拡大担当者との会議を行い、拡大に関しての様々な要望に応えます。また、各地域の主要企業を訪問することで青年会議所の理解を深めます。
政 策 手 法 (ゴ ー ル デ ン サ ー ク ル)	(SDGs) Why(理由): 誰一人取り残さない社会を実現するため How(手法): 県内の自治体、企業とディスカッションを行い、SDGsの周知、推進を行います。 What(行動): JCメンバー、企業、自治体へSDGsの周知を行い、当事者意識の醸成に繋げ、SDGsの達成に取り組みます。
	(会員拡大) Why(理由): 持続可能な政策を発信し続けるためには、会員拡大が必要であるため。 How(手法): 定期的な拡大会議の開催。OB、各地域への訪問活動。 What(行動): 拡大をLOMだけの課題とせず、ブロック全体で取り組むことで県内全メンバーへ当事者意識を持たせ、34%拡大へ繋がります。
パ ー ト ナ ー	山口祥義(佐賀県知事): SDGs周知活動支援
	各地青年会議所OB、各地域企業: 拡大支援